

# ハルキタル栽培管理表（1年目）

2021作成

アグリ技研(株)

## 1.ハルキタルの栽培特性（ポイント）

- ①全雄株であり1年目（定植年）から株（地下茎・草勢）を強く仕上げる。
- ②生育を旺盛にするために、1年目の収穫（秋）は控える。
- ③2年目以降の立茎は、雌雄品種よりやや太茎（1.2～1.5cm）を立てる。

品種	穂締	品質	収量	下枝位置	茎伸長
ハルキタル	優	優	多収	上部	優
雌雄株	優	良	多収	下部	良

## 2.育苗

- ① 10a当たりの必要本数 2,000～2,200本
- ② 育苗日数は、90～100日程（7.5～9cmポット）とします。
- ③ 育苗期は、生育状況でアミクエ、ウルル7号、置肥で追肥をします。
- ④ 苗質、茎数3～5本、草丈30cm前後、根はポット内にギッシリ張る状態とする。
- ⑤ 育苗期に斑点病や茎枯病の予防防除の徹底します。

## 3.本田土づくり、元肥基準（10a当たり）

- ①定植前には、完熟堆肥（50～70 t）の投入や深耕（20cm以上）又は畝芯の部分に有機物（堆肥・ヤシガラ）で土壌改善や腐植率を高めます。
- ②本田の、排水対策は十分に行います。（水を好む作物）

### ③元肥基準（例）

肥料名	施肥量（袋）	施肥時期・備考
鮮菜美人643（6-4-3）	6	定植前7～10日
豊作源（活性炭改良材）	10	定植前7～10日
珪リン酸（0-13-7-2）	3	定植前7～10日
カルタマQ（有機石灰）	10	定植前10～15日
亜リン酸有機8号	2	定植前7～10日
カウボン（P-40）	3	定植前10～15日（分析後）
モンネン（CEC資材）	3	定植前10～15日（分析後）
腐植酸（腐植酸資材）	5	定植前10～15日（分析後）

\* 改良材のカウボン・モンネン・腐植酸は土壌分析後に調整施肥\*

**4.定植** 栽植様式 畝幅150cm×株間35cm 約1,900～2,000本

- ①定植時期は、なるべく春先の気温上昇期に行うことで生育も促進されます。
- ②畝立後は、灌水チューブを準備して、定植苗にはウルル7号やアミクエを灌水して定植します。（活着促進）
- ③植付けの深さは、3～5cm程で定植後は十分な灌水をします。

**5.定植後の管理** 「基本的には一般的品種の管理に準じます」

(1)水管理

- ①定植直後（ハウス栽培）は、乾燥気味で生育も旺盛に成りがちですから土壤水分を見て2日間隔では灌水をします。
- ②夏季や生育旺盛になると一段と灌水量を増やす様にします。
- ③生育後半は、養分転流期となりますので刈取までは十分に灌水しましょう。

(2)追肥

- ①定植後30日程から追肥をします。（鮮彩美人066又はセンサイオール1）10aに1袋から莖数・草丈の生長と共に2袋まで増やします。
- ②発根促進にアミクエ10kgや生育促進にウルル10号30kgを灌水します。
- ③止肥は平均気温15℃前後まで、その後は液肥を刈取期まで施肥します。

(3)莖葉の管理

- ①倒伏防止に支柱やネット・テープ等でしっかり固定します。
- ②30日程したら定植時の古莖の整理をして太物莖を残します。（受光代謝促進）
- ③全雄株のために下枝の整理は省力出来ます。
- ④摘芯は生育後半に1.3mより高くなる場合に行います。
- ⑤仕上げの時期の全莖数は、10～15本程で1cm以上の莖が50%程にします。（L級）  
（生育に応じては間引き収穫も可能です）

(4)防除

- ①防除については、一般的な品種に準じます。

(5)養分転流期

- ①最低気温10℃前後から活発となりますので、PKゴー2000倍の散布地下部に養分を転流させて春芽の増収に繋がります。

(6)刈取時期

- ①一般的な品種に準じます。（なるべく転流促進後に処理）

\*1年目は、黄化80%程 2年目以降は、なるべく完全黄化状態

## (7)冬肥

①刈取後に堆肥や肥料を施肥後に保温をします。

①冬肥基準 10a当り

肥料名	施肥量 (袋)	備考
鮮菜美人643 (6-4-3)	6	地上部刈取後
豊作源 (活性炭改良材)	10	地上部刈取後
珪リン酸 (0-13-7-2)	3	地上部刈取後
カウボン (P-40)	3	地上部刈取後
モンネン (CEC資材)	3	地上部刈取後
腐植酸 (腐植酸資材)	5	地上部刈取後
カルタマQ (有機石灰)	10	地上部刈取後
堆肥	5~10 t	地上部刈取後

\* 改良材のカウボン・モンネン・腐植酸は土壌分析後に調整施肥 \*

## 6.初めての春芽収穫期の管理 (ハウス栽培)

### (1)温度管理

①収穫前の保温時期には、施設内を密閉して萌芽を促進させて、  
収穫開始期からは、日中25~30℃ 夜温は最低6℃の維持に努める。

### (2)水管理

①ハウス栽培では、土壌水分を一定に保つことで品質面や収量面の増加になりますので、春芽の時期は1~2日置きに少量多回数灌水とする。

### (3)春芽収穫期の追肥

①収穫開始後約20日前後で追肥を行う、収穫量に応じて行うものの  
7~10日置きには、センサイオール1等を2袋施肥する。

(液肥・ウルル10号やアミクエの追肥)

## 7.立茎作業 (定植2年目)

### ①立茎のポイント

\* 茎の太さ 1.2~1.5cm前後のやや太物 (雄株) \* 1.8cm以上は縦割れ多くなる。

\* 収穫後日数 1年目は、20~25日で立茎開始 (株間・圃場各差)

\* 立茎の間隔や品質は他品種と同様に、本数は㎡に12本 (株/3~4本)

### (3)春肥 (立茎前施肥)

肥料名	施肥量 (袋)	施肥時期・備考
鮮菜美人643 (6-4-3)	6	立茎前7~10日
豊作源 (活性炭改良材)	10	立茎前7~10日
珪リン酸 (0-13-7-2)	3	立茎前7~10日
カルタマQ (有機石灰)	10	立茎前10~15日
カウボン (P-40)	3	立茎前10~15日
腐植酸 (腐植酸資材)	5	立茎前10~15日

地下茎充実のためアミクエ10kg/7~10日間隔での灌水処理を定期的に行いましょう。